

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3770600173
法人名	医療法人社団 陶山医院
事業所名	有情の里
所在地	香川県さぬき市大川町田面78番地1 (電話) 0879-43-5601

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価決定日	平成19年12月13日

## 【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 7人、非常勤 2人、常勤換算 4.3人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨瓦造り 1階建ての1階部分
------	--------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有( )円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( )円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	500円
	夕食	400円	おやつ	0円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.5歳	最低	73歳	最高	100歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	陶山医院、さぬき市民病院、阿部歯科
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは地域との交流に力を入れており、早くから自治会に加入し、活動している。自治会長や民生委員、婦人会、老人会等の地元代表者が運営推進会議のメンバーとなって、グループホームを力強く支援している。  
職員は強い信頼関係で結ばれ、利用者の尊厳を大切にしたい優しいケアが行われている。また、ペットの犬が同居しており、利用者の情緒安定となっている。記録類はよく工夫し、分かりやすく整理されており、職員研修にも積極的に取り組み、能力開発と質の向上に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> ホーム機能の地域への還元については、運営推進会議に、毎回、ホームの機能や認知症の理解を促す話題を提供して啓発を図っている。また、外出支援の促進については、外出記録等を作成し、外気浴や建物内外の歩きを含め、外出促進に努めているが、利用者の意欲向上が課題である。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 職員に自己評価の意義を周知し、意見を聞いて評価を行っている。また、前回の外部評価の結果については、ミーティングを行い、具体的な改善策を検討し、実施に努力している。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 運営推進会議では、毎回、写真を見てもらいながら、運営報告をしたり、認知症の理解を進める話題を提供している。また、楽しみごとのメニューについて、いろいろ情報提供を受けている。婦人会から利用者外出時の協力申し出があり、その受入れについてや、防災訓練は年1回でなく増やすように提案があったので、検討している。
重点項目③	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> 意見箱を設置したり、家族から積極的に意見を言ってもらえるよう声かけをしており、今のところ具体的な苦情は出ていない。今後、家族から苦情等が出された場合は、速やかに誠意をもって対応していく姿勢である。
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 自治会に加入し、地域の会議や行事に参加している。散歩、買物、美容容院等に出かけ、地域の人との交流がある。運営推進会議を通して、自治会、民生委員、婦人会、老人会等との連携を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者を地域の中で尊敬すべき年長者として捉え、個別的ケアに取り組むことをモットーとしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングやケアカンファレンス時に、運営理念を確認し、理念を具体化する実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域活動に参加している。利用者は地元出身者ばかりなので、友人、知人、家族が頻繁に出入りしている。また、地元の中学校が体験学習で訪れたり、小学生や幼稚園児の交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義を理解し、職員の意見を聞きながら、自己評価を実施している。外部評価の改善項目については、ミーティングを行い、改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営やサービスの実際を報告し、建設的な意見、提案をしてもらっている。また、外部評価の結果について報告し、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市の担当者とは何でも相談できる関係にある。運営推進会議では行政情報を提供してもらい、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	ホーム便りと共に、個別にその暮らしぶりや医療、健康状況、行事計画等をチラシのようにして、送付している。預り金の支出報告も行っている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の意見、苦情、不満を言えるよう、声かけしている。具体的苦情は現在ないが、家族から苦情等が出された場合は、速やかに対応していく姿勢である。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員が定着できるよう、運営者が努力している様子が見える。異動はほとんどなく、馴染みの職員による支援が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	外部研修には、よく参加している。内部研修としては、勉強会の開催や会議、行事等の企画・運営を全職員交替で行う等、職員の能力開発に努めている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同町内にあるグループホームとの交流があり、情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の意見を聞いたり、協力してもらいながら、徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に考えたり、楽しんだりしている。また、利用者から教わったり、職員が利用者に話を聞いてもらう場面もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向把握に努めている。本人の意向がつかみきれない時は、複数の職員で対応する等、よく声かけがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたって、サービス担当者会議に家族を招いて意見を聞いたり、内部資料を活用し、できるだけ多くの人達の意見を参考にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3か月ごとに見直しをしている。見直し以前に対応できない変化があったときは、現状に即した新たな計画を関係者と協議のうえ、作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助等、家族ができない時は、要望に沿った支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内に診療所があるが、入居前のかかりつけ医を継続希望する場合は、それを尊重した対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時は意向を確認して記録しているが、その後変化があれば、追加記録を残している。また、繰り返し、話しあっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者は年長者として、尊敬の念をもって対応している。一人ひとりの尊厳、誇り、プライバシーを大切にされた言葉かけを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣や行動を理解し、それぞれのペースにあわせた生活となるよう支援している。優しく、慌てず、ゆっくりを基本としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりができる範囲で、食事の準備や片づけを手伝っている。ゆっくりと楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態や希望に沿って、安全な入浴介助を行い、入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字や絵手紙、大正琴、家庭菜園など、いろいろな楽しみごとのメニューを用意している。その他、趣味や特性を活かしたレクリエーションを実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出しながら利用者がいるので、無理強いはず、屋外での外気浴や軽い散歩程度の支援をしている。外出希望があれば対応しているが、日課とまではなっていない。	○	外出は身体機能の低下予防と心身の活性化につながるため、ボランティアの協力も得て、日常的に外出できる支援体制づくりが望まれる。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	やむを得ない状態のとき以外は、基本的に鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力による定期的な防災訓練を実施している。また、自治会の自衛消防団の協力を得る体制もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成し、バランスよく栄養摂取ができるよう取り組んでいる。時には、粥食にしたり、水分補給にも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花が生けられている。壁には利用者の作品や行事の写真が掲示され、中庭からはやわらかい光が差し込んでいる。ペットがあちらこちらへ動き、利用者の表情を和ませており、居心地よく過ごせる雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものや、好みの家具等を持ち込んで、それぞれの城を築いている。ドアの内側にカーテンをつける等、プライバシーへの配慮がなされている。		